



教育・学生・国際(教育) / 教育・学生担当理事  
 (2008.10.1 – 2009.10.31) (2009.11.1 – 2010.9.30)

西村 周三

私は平成20年10月より、松本 紘総長の下で、教育・学生担当理事を2年間務めました。また、それ以前の2年半、尾池和夫前総長の下で国際交流担当理事を務めていた関係で、国際交流のうちの学生に関する事項も引き続いて、この2年間所掌いたしました。

### (1) グローバル30事業の実施

国際交流全般は他の理事が担当されましたが、平成21年度から発足する文部科学省の「国際化拠点整備事業」(グローバル30)の公募に応じ採択されましたので、この事業の構想責任者を務めました。本事業は、松本総長のリーダーシップの下、全学をあげて実施する事業となりました。9つの研究科と1つの学部で英語のみで学位(博士、修士、学士)を取得できるコー

スが発足ないし準備完了しています。

また、この事業に採択される時点で本学に分担を要請された海外事務所の開設が、平成22年9月に実現しました。本学が担当する場所はベトナム国家大学ハノイ校です。これらの事業の実施は、部局の多大な努力は言うまでもありませんが、森 純一国際交流推進機構長をはじめ、国際部の職員の懸命の努力で、現在順調に事業が進んでいることを報告します。

### (2) 初年次教育の試行

教育推進部の新たな取り組みとしては次のようなものをあげることができます。近年の急激な社会構造の変化と学生の多様化、気質の変化に対応した形で、京大生にふさわしい初年次教育の編成が必要と考えました。平成22年度に



京都大学-ベトナム国家大学ハノイ共同事務所開設に伴う調印式で握手を交わす両大学総長



共同事務所内覧の様子



初年次セミナー



新入生ガイダンス

は試行的なプログラムを展開しました。法令遵守、メンタルヘルス、自校教育、人権、大学の国際化、自然科学学習への導入、カルト問題などといった内容の1日講義を企画し、好評を得たと思います。

さらに、来年度以降の本格実施に向けて、教育制度委員会において、ワーキング・グループを立ち上げ、高見 茂理事補の下で、計画を練っていただいています。

### (3) 教育制度改革

また、数年間休眠状態となっていた「教育制度委員会」を再開し教育制度改革に関わる案件を審議していただきました。まずアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの全学版の策定と部局版との調整を行いました。この作業は南川高志理事補を主査とするワーキング・グループに多大の努力をいただきました。また、全学にわたる標準シラバスモデルの作成、修士課程の修了要件の見直し、国際教育プログラムのあり方、学年歴

の全学での調整作業も、それぞれワーキング・グループを組織してお願いし、実施いたしました。それぞれの主査や委員長をはじめとする各委員に感謝したいと存じます。

今後の課題としては、平成22年2月に公布されたキャリア教育を保証する大学設置基準の改正に伴い、平成23年4月からの同教育の導入が義務づけられており、これらに対応する教育プログラムの開発を部局と連携する形で進める必要があります。

### (4) 研究科横断型教育の推進について

大学院生が広い視野をもち、新たな学問領域を創造できるような研究能力を備えるための一方策として、総長の指示で提案され、南川主査の下で検討を加えた、研究科横断型教育が平成21年度から試行されました。平成22年度は、これを拡充しましたが、大学院生にとって魅力的なものをいかに開発するかなど、まだ多くの課題を抱えています。

カウンセリングセンターにおける平成21年度の相談件数（相談内容別の集計）

	心理適応相談								教育相談			職業相談		健康相談	その他			小計					総計
	人 生 観	対 人 関 係	恋 愛 問 題	家 族 関 係	言 語 障 害	性 格 問 題	心 理 障 害	精 神 障 害	学 部・学 科・進 路	学 業	課 外活 動・教 養	仕 事	職 種 選 択	身 体 健 康	グ ル ー プ ワ ー ク	ハ ラ ス メ ン ト	そ の 他	心 理 適 応 相 談	教 育 相 談	職 業 相 談	健 康 相 談	そ の 他	
実人数	4	33	35	20	2	24	214	12	18	134	8	24	19	5	0	101	13	344	160	43	5	114	666
延人数	67	168	119	88	8	215	2826	171	40	760	34	54	114	20	0	445	55	3662	834	168	20	500	5184

### (5) 学部入試方法検討ワーキング・グループ中間報告について

学部入学者選抜の在り方について検討するため、研究科長部会の下に「学部入試方法検討ワーキング・グループ」を設けて審議を進めてきました。このうち、出題と採点に関する問題点について中間報告をとりまとめました。今後の、より広い観点からの入試制度のあり方の検討課題を提示するとともに、具体的な改善方策の検討課題も提示しています。

### (6) 入試説明会

主に学部入試に関して、全国各地を巡回し各種の入試説明会を数多く実施しました。この中には、本学主催で本学および品川キャンパス（東京オフィス）で行ったものに加え、他大学主催の説明会にも積極的に参加し、単なる広報活動にとどまらず、各地の高等学校教員などの京都大学についてのイメージの聴取にも努めました。少子化の進む中で、こういった高等学校教員や高等学校生の声を聴取することも、本学にとって必要不可欠な作業だと思います。

### (7) コンプライアンスについて

近年、学生の薬物乱用やわいせつ行為等により逮捕される事件が連続して発生しています。また、自転車等のマナーについて苦情が寄せられるなど、コンプライアンスやモラルが問題となっています。この種の問題に対する、学生部と、各学部、研究科との協力のあり方に意を注ぎました。



若者の薬物問題について考える講演会

### (8) 吉田南構内の再整備について

吉田南構内に、「国際交流拠点施設」を整備するとともに、「新しい学生寮」建設に向けた整備を行うこととしています。特に、本事業の実施に当たっては、学生諸君との話し合い、および教職員各位のご理解が不可欠であると考えています。



Shuzo Nishimura

### 平成 21 年度就職関連ガイダンス等参加者数

行事名	実施回数(日数)	のべ参加者数(人)
就職ガイダンス	7	2094
業界研究セミナー	8	1884
キャリアデザイン講座	4	220
合同企業説明会	8	3531
公務員関係ガイダンス	5	1404
就職セミナー	57	2628
グループワーク対策講座	2	145
インターンシップガイダンス	1	290
内定者による相談会	27	148
国 I 公務員試験模擬面接	4	44
SPI・職務適性診断	3	770
マスコミ就職講座	2	21
弁理士試験対策講座	1	67
就職相談	206	1133
キャリアパス多様化推進計画	14	259
計	349	14638



就職支援情報誌

### (9) キャリア支援、学生相談について

キャリアサポートセンターでは、毎年、就職セミナー、企業ガイダンス等を延べ100回以上実施してきました（上の表を参照）。また、カウンセリングセンターでは、学業、対人関係、ハラスメントなど、学生生活上の様々な悩みについて、相談に応じてきました。とりわけ近年カウンセリングセンターの業務が、学生の相談件数の増加に応じて急速に拡大しています（20頁の表を参照）。また、発達障害のある学生支援のための要員確保が急務となっています。

なお、キャリアサポートセンターでは、平成21年度に海外調査を実施するなどして、日本だけでなく、世界の主要国の「ポスドクに対する就職支援」の現状を調査し、2010年9月に「ポスドクガイドライン ポスドクの就職支援への取り組みと現況」と題する報告書を出しました。これには鱸 淳一センター長と梅田幹雄特任教授に負うところが多いことを申し添えておきます。

### (10) 学生に対する経済支援の充実

役員会のご理解の下、学生の経済支援策として平成22年度から本学独自財源により授業料免除枠を1億円措置することができました。政府により、授業料免除枠の拡大要望がなされていますが、免除申請者の増やG30による申請者の増が見込まれるので、政府の予算編成の動向にも留意しつつ、更なる経済支援の充実を図る必要があると思います。

### (11) 課外活動施設、福利施設の充実

アクションプランや総長特別裁量経費により、西部課外活動棟の新営や北白川スポーツ会館の改修等を行うことができました。学生の課外活動支援並びにキャンパスアメニティの向上のため、北部グラウンド、音楽・演劇系サークル棟や南部学生食堂等の整備が必要と考えます。

